

課題番号 : 24指2
研究課題名 : アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・災害等に
対応した新規戦略策定の研究

主任研究者名 : 溝上哲也
分担研究者名 : 小林潤、神馬征峰、門司和彦、池田憲昭
キーワード : 学校保健、途上国、生活習慣病、災害、環境
研究成果 :

政策実施評価

昨年度進められたラオス及びタイの学校保健政策の実施プロセスの影響要因を特定するためのデータ解析は各班共同で進み、実践9要因は、Resource management, Extensive planning, Monitoring cycle まとめることができこれら3要因の教育システムへの「制度化」が必要と提言された。これはHealth promotion International 誌に掲載されるのみならず、ラオス教育省副大臣・局長に数回にわたって提言した。この結果ラオス教育省では学校保健に特化したセクション新設の検討が始まっている。現在タイのデータの分析が進められ、一般教育評価との融合、Institutional Sustainability の必要性があぶりだされてきている。また神馬班ではネパールでのデータ収集を進めている。

アフリカ地域ではニジェールの学校保健アセスメントの効果は前研究班で報告されたが、この結果を受けてアセスメントシステム構築についての世界的動向の分析等の考察が盛り込まれ Rural and remote health 誌に掲載されるにいたった。さらにケニアについては包括的學校保健政策実施が欠席率の低下や学業成績等の教育指標への影響についての介入研究が開始された。

学校保健での新しい保健課題

生活習慣病、口腔保健、環境、災害とバイオレンスに視点を当てて、開発途上国の次世代学校保健の政策への盛り込みの可能性検討をすすめているが、今年度は以下の成果を得た。生活習慣病については溝上班によって学校での介入によって、生徒自身の保健行動が改善されるのみならず、周囲の環境を健康に保とうとする生徒が増加していることが確認された。さらに肥満女性に対する学校保健を介した減量支援に関する介入研究はベースライン調査が終了し、現在健康増進ファシリテーターとともに、母親の運動不足や食生活改善に関するグループ活動等の介入が進められている。池田班ではマダガスカル国の喫煙年齢低下傾向に対する学校保健を通じた有効な対策法を明らかにすることを目標として、2013年3月にマジャンガ市において、同国の児童、青少年の喫煙開始年齢の現状とその背景因子を明らかにするための予備調査を実施した。この結果、女子の喫煙率が上昇していることが明らかになり、この結果を受けて介入試験を開始している。また昨年度実施された口腔保健の専門家を集めたワークショップの結果を受け、口腔保健の重要性について REVIEW としてまとめられた。門司班では前研究班から環境と保健に焦点あてたエコヘルズ教育を提唱してきているが、教員養成を行う全国16か所の学校で2017年に改訂予定の教育カリキュラムの中に、人口学およびエコヘルズ教育として正式に導入されることにいたっている。アジア地域で取り上げられ始めている災害について昨年度まで実施された文献・関係者分析によって提案された災害対策の学校保健政策への盛り込みに関するアクションリサーチは、フィリピン大学公衆衛生校を中心とした SEAMEO (東南アジア教育大臣機構) との共同研究体制が構築され、最終年度に実施される予定である。

東南アジアリージョナル政策への還元

研究班が母体となって結成されている JC-GSHR (国際学校保健コンソーシウム) 主催の東南アジア学校保健・栄養トレーニングコースが2013年2月にラオス教育省、12月にタイ・マヒドン大学がホストになり開催され、政策実施プロセスの研究結果を題材にした政策マネジメントのワークショップがとりいれられ、東南アジア各国の学校保健政策実施者が政策マネジメントの重要性を認識した。さらに、12月にはアジア学校保健シンポジウムを合同国際熱帯医学会議で開催し、アジア地域の学校保健宣言のドラフトが作成された。これには上記の学校保健政策マネジメントの解析結果と学校保健の新しい課題として生活習慣病対策、オーラルヘルズ、エコヘルズ教育、Inclusive Education の重要性が盛り込まれることになった。これは各分担班の研究推進とともに研究班全体として取り組んできた結果である。

Subject No. : 24S4

Title : Study for a policy management of the school health in Asia and Africa and the development new strategies related to new health topics

Researchers : Tetsuya Mizoe, Jun Kobayashi, Masamine Jimba, Kazuhiko Moji, Noriaki Ikeda,

Key word : School health, developing country, non-communicable diseases, disaster, eco-health

Abstract :

Research related to policy management & Feedback to policy formulation in each country and strengthening the JC-GSHR: Japanese Consortium of Global School Health Research as an think-tank in Japan.

We collected the data to understand the factors for promoting the policy formulation and implementation of the school health in Lao and Thailand. We recommended that policy management of school health should synchronize to the management system of general education for sustainable scaling up the school health program. The recommendation was disseminated to each government staff in Southeast Asia through organizing regional training course and symposium. Moreover, we recommended directly to the policy maker in some country. Lao PDR has started to prepare the new section for specifically administrating the school health program.

Evaluation of the self-assessment system in Niger was reported in the journal; Rural and remote health. Impact evaluation of comprehensive school health has started in Kenya pilot area.

Develop the strategies in consideration of the new health topics in school health

The following findings were obtained as candidates of the new health topics on the future school health strategy in developing countries;

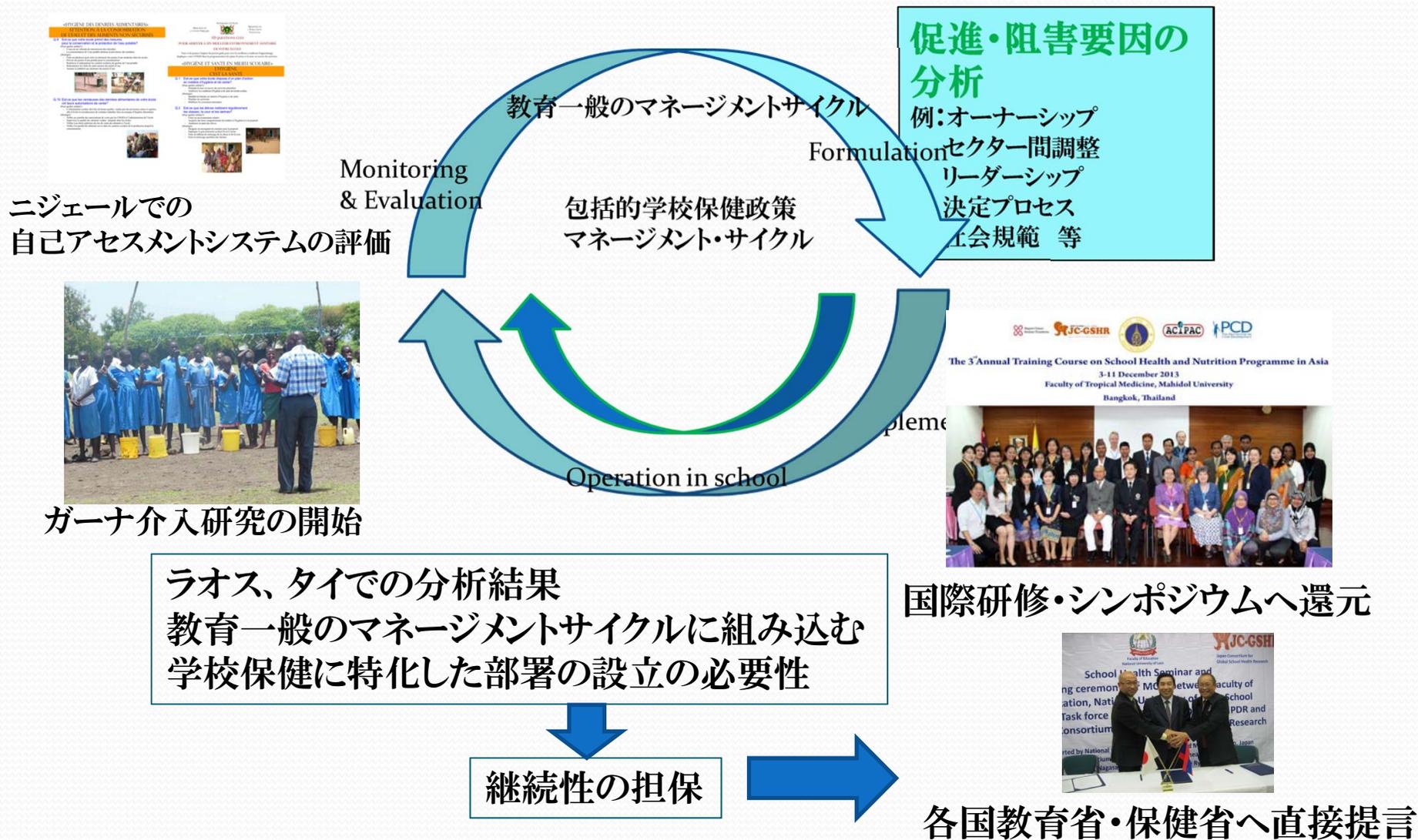
- Oral health is important issue as one of approach for implement non-communicable disease control
- Integration with health promoting school concept can apply for non-communicable disease control
- The concept of child protection should be modified in consideration with the long-term follow up post disasters.
- The efficacy of eco-health education was recognized among teachers in model schools in Lao PDR. The development of clear concept should be considered as a next step.

Asian symposium of school health were organized in Bangkok, Thailand. The findings mentioned above were feedback to contents of the presentation in the symposium , and developed the draft summary under the consensus among the participants in consideration of each country context.

Researchers には、分担研究者を記載する。

24指2 アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・災害等に対応した新規戦略策定の研究

その1: 政策実施評価



促進・阻害要因の分析

例: オーナーシップ
セクター間調整
リーダーシップ
決定プロセス
社会規範 等

教育一般のマネジメントサイクル

Formulation

Monitoring & Evaluation

包括的學校保健政策
マネジメント・サイクル

Operation in school

Implementation

ニジェールでの
自己アセスメントシステムの評価



ガーナ介入研究の開始



国際研修・シンポジウムへ還元

ラオス、タイでの分析結果
教育一般のマネジメントサイクルに組み込む
学校保健に特化した部署の設立の必要性

継続性の担保

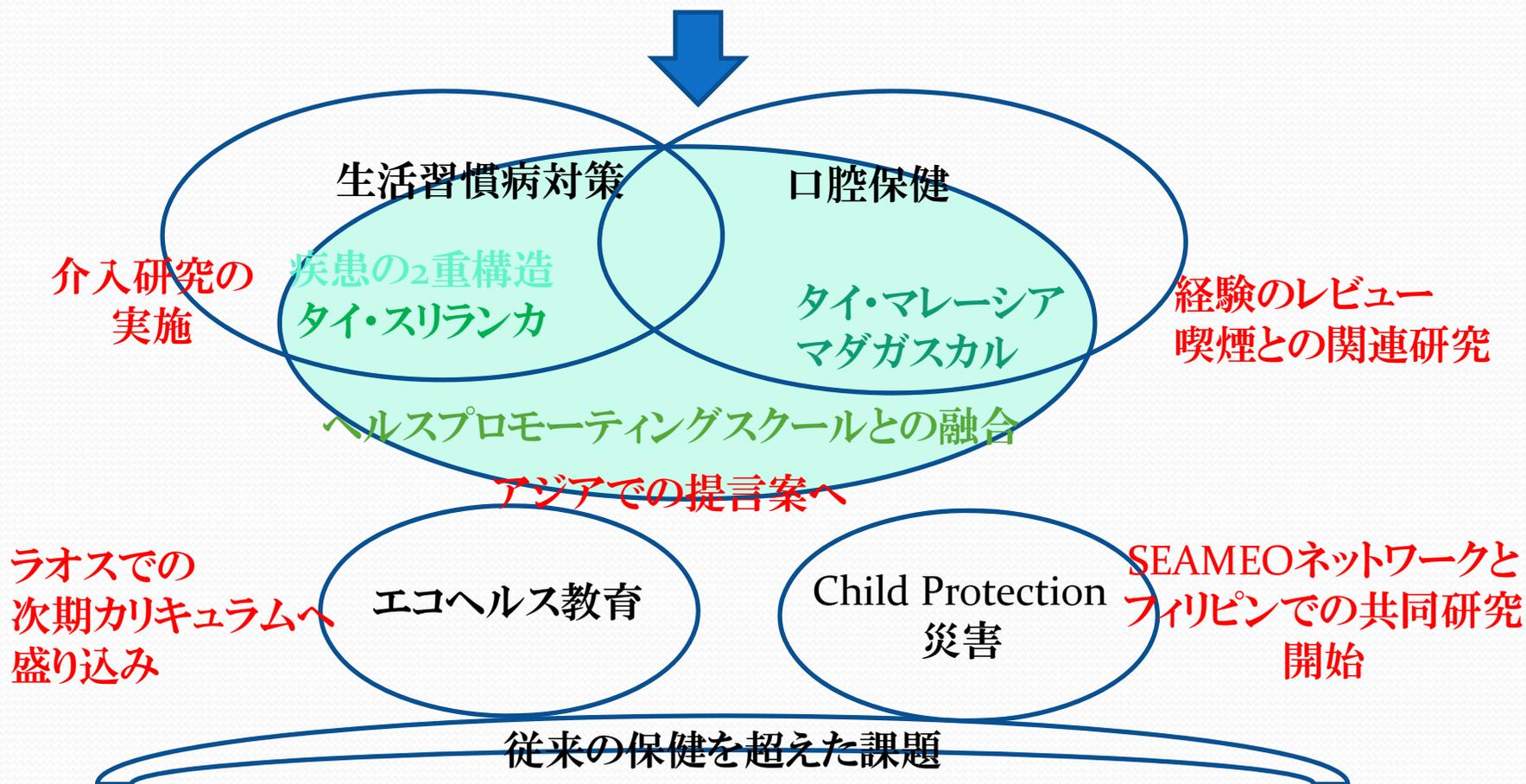


各国教育省・保健省へ直接提言

24指2 アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・災害等に対応した新規戦略策定の研究

その2: 疾病構造変遷・災害等に対応した新規戦略策定

● 感染症対策(土壌伝播性寄生虫・エイズ・マラリア等)



課題番号 : 24指2

研究課題名 : 途上国における生活習慣病予防に資する地域波及型学校保健モデルの開発と評価

主任研究者名 : 溝上哲也

分担研究者名 : 溝上哲也

キーワード : 学校保健、生活習慣病、健康増進、子どもから親へ、地域保健との連携

研究成果 :

【目的】途上国において学校保健を基盤とした感染症対策が我が国や世界銀行等のイニシアティブにより推進されてきたが、生活習慣病の増加に対応した学校保健モデルの構築が期待される。本分担研究では、スリランカにおいて親や地域の生活習慣病の低減を目的に開発された学校保健のアプローチを検証しつつ、新たなモデル開発として母親の肥満対策として学校保健を用いた介入手法を開発し、それを疫学的手法により評価する。助産師による学校保健活動への関与の可能性についても検討する。

1. 学童から親・地域へのヘルスプロモーションモデル：追跡調査

スリランカ西部州の学校保健プロジェクト対象校におけるヘルスプロモーション活動の効果について質的及び量的な側面について分析を進めた。介入校の生徒は対照校に比べ、喫煙者にタバコを吸うのを止めさせようとした割合や、1日60分以上、運動している日数(週当たり)が多かった。また、病気の予防のため学校で何らかの行動を起こそうとクラスメートや先生と話した生徒の割合が増加していた。これらの結果より、学校での介入によって、生徒自身の保健行動が改善されるのみならず、周囲の環境を健康に保とうとする生徒が増加したことが伺える。2013年12月にバンコクで開催された国際学会の学校保健セッションにて、途上国における生活習慣病の拡大と社会的負担の大きさに言及するとともに、本研究の成果を発表し、学校保健を通じた小児期からの予防の重要性を強調した。

2. 学童の母親を対象とした肥満予防の介入研究

肥満女性に対する学校保健を介した減量支援に関する介入研究について、2013年2月コロムボ大学倫理審査委員会より計画の承認を得た。研究デザインはクラスター無作為化比較試験で、介入群(10クラスター・155名)・対照群(10クラスター・162名)とし、2013年3月から5月にベースライン調査として、母親を対象に食事・身体活動などの質問紙調査、身体計測および3日間の歩数計の装着をおこなった。スリランカのカウンターパートがその結果を報告書にまとめ、日本人研究協力者が国内の学会で発表した。ベースラインの介入群と対照群の母親の平均年齢は各々39.4歳、37.8歳、過体重者割合は両群とも41%であり、対象者特性に大きな違いは見られなかった。ベースライン調査以降、介入校の学童は、健康増進ファシリテーターとともに、母親の運動不足や食生活改善に関するグループ活動を月1回、行なった。その際、不必要な食品の購買を減らすなど健康的な生活への転換が家計にも好ましいことを強調した。これに対し、対照群ではパンフレットによる指導のみを行った。介入校地区においては、健康に関する知識と方法を学習した母親が子どもとともに、運動習慣づくりや保健知識の普及をコミュニティレベルで推進している事例があることを確認した。

3. 助産師による学校保健の支援に関する研究

2012年から2013年にかけて、スリランカ中部州キャンディ郡の公衆衛生助産師(484名)の中から無作為に抽出した153人を対象に、自記式調査票を用いた調査を行った。結果として、ほぼ全員(98.0%, n=150)が何らかの学校保健活動に参加した経験があった。約半数(44.4%)は、現在の学校保健教育は不十分と考えており、特に不十分な保健教育分野として、健康に良い食事(91.5%)、喫煙・飲酒予防(86.3%)、運動(78.4%)、精神保健(69.3%)、肥満予防(62.7%)などを挙げた。以上のような生活習慣病の決定要因に関して、ほとんどの公衆衛生助産師(91.5%)が学校保健活動を支援したいと答えた。また、多く(79.7%)が生活習慣病の決定要因や予防法について説明できる自信を持っていた。以上の結果から、生活習慣病予防対策においても、公衆衛生助産師が学校保健活動を支援することは可能と考えられる。

課題番号 : 24指2分担
研究課題名 : 途上国への学校保健の再考から、各国への次世代政策策定還元への研究
主任研究者名 : 溝上哲也
分担研究者名 : 小林潤
キーワード : 学校保健、政策、開発途上国、災害
研究成果 :

開発途上国における政策策定・実施課題と次世代学校保健の保健課題の検討を、東南アジア各国政策策定・実施者及びイギリス等の開発パートナーとともに意見を集約させた。また新しい保健課題として災害への取り組みについても研究がすすめられた。

開発途上国における政策策定・実施課題

研究班が母体となって結成されている JC-GSHR (国際学校保健コンソーシアム) 主催の東南アジア学校保健・栄養トレーニングコースが 2013 年 2 月にラオス教育省、12 月にタイ・マヒドン大学がホストになり開催され、政策実施プロセスの研究結果を題材にした政策マネジメントのワークショップがとりいれられ、東南アジア各国の学校保健政策実施者が政策マネジメントの重要性を認識した。このことによって本研究班のラオス・タイでの結果が、各国への政策への還元が期待される結果となった。さらに 12 月には、アジア学校保健シンポジウムを合同国際熱帯医学会議で開催し、アジア地域の学校保健宣言のドラフトが作成された。これには学校保健政策マネジメントの解析から、教員養成と現任教育・カリキュラムとカリキュラム外の健康教育のシンクロナイズの必要性、教育省の Institutional Suitability の必要性盛り込まれた。さらには学校保健の新しい課題として生活習慣病対策、オーラルヘルス、エコヘルス教育、Inclusive Education の重要性が盛り込まれることになった。これは各分担班との共同によって進められてきた結果である。

アフリカ地域での研究は、アセスメントシステム構築についての世界的動向の分析とニジェールでの学校保健政策策定の進行状況を分析した。これを受けて、前研究班で報告したニジェールの学校保健アセスメントの効果の研究考察がまとめられ、投稿がなされた。この結果科学論文として Rural and remote health 誌に出版された。さらにケニアについては新たに包括的学校保健政策の実施についてアクションリサーチが開始された。これは包括的学校保健の実施とそれによる政策実施が欠席率の低下や学業成績に与える影響についての研究となっており、今年度はベースライン調査が実施された。学校保健が教育指標への影響についての研究は教育セクターが包括的学校保健の重要性を考える上で極めて重要であることを示唆してきた。しかしながら、実際は開発途上国では行われてないのが現実であった。

次世代学校保健の保健課題の検討としての災害

災害に対しての学校保健について、文献・関係者分析によってその重要性の認識が各機関ではたかまってきていることが確認されたが、開発途上国での具体的アクションは開始されていないことが現実であった。この結果を受けて提案された災害対策の学校保健政策への盛り込みに関するアクションリサーチは、フィリピン大学公衆衛生校を中心とした SEAMEO (東南アジア教育大臣機構) との共同研究体制が構築したことによって実現した。最終年度は巨大台風 30 号の被災地であるフィリピンレイテ島をモデルとした調査を実施予定である。

課題番号 : 24指2
研究課題名 : アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・災害等に対応した新規戦略策定の研究
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 神馬 征峰
分担研究課題名 : 途上国における学校保健政策・実践ギャップの関連要因の特定

キーワード : 学校保健、学校保健政策、ヘルスプロモーション・スクール、東南アジア諸国

研究成果 :

<平成 25 年度>

ラオス・タイ・ネパールの 3 カ国において研究を実施した。さらに、研究成果は国際的な戦略の根拠として貢献した。

● ラオスにおける学校保健政策研究（計画・実施・執筆・出版）

「ラオスにおける国家学校保健政策実践の影響要因」について、国・県・地区レベルの教育省と保健省の政策実施者および小学校教師を対象にしたインタビューとドキュメントレビューを実施した。結果は質的に分析し、*Health Promotion International* 誌に出版した。

<研究結果概要>

9つの政策実践影響要因が特定された（例：Extensive planning, Resource management, Monitoring cycle）。さらに、国家学校保健政策実践のギャップを狭めるためには、政策実践を既存のシステムに組み込む必要性が指摘された。

Factors influencing the National School Health Policy implementation in Lao PDR: a multi-level case study.
Saito J, Keosada N, Tomokawa S, Akiyama T, Kaewviset S, Nonaka D, Waikugul J, Kobayashi J, Souvanvixay M, Jimba M. *Health Promot Int.* 2014 Apr 2

● タイにおける学校保健政策研究論文（計画・実施・執筆）

「タイにおける国家学校保健政策実践の影響要因」について、ラオスにおける研究と同様の研究デザインにてデータを収集し、論文執筆中である。

● ネパールにおける学校保健政策研究（計画・実施）

「ネパールにおける国家学校保健政策実践の影響要因」について、ラオスにおける研究を発展させた研究デザインにて研究を実施しデータ収集を行った。具体的には、インタビュー対象者としての政策実施者に、ドナー職員も加えてより多角的に影響要因を調べ、さらに、学童にもアンケートおよび手洗いのスポットチェックを実施し、学校保健政策実施の効果を量的に調べる計画である。

● バンコク宣言への貢献

アジアで学校保健を実施する各国政府・国連機関・研究機関・NGO 団体および市民団体が共同で 2014 年 12 月に行うバンコク宣言 10 項目のうち、4 項目の宣言内容においてその根拠となる研究結果を提供した。

<貢献しうる 4 項目>

- ・積極的に実践ギャップに取り組む
- ・学校保健実践を制度化する
- ・県、地区レベルでの管理能力の強化、および学校、国、地方の各レベルでの活動が一致する
- ・継続性のための学校保健ユニットを制度化し、学校保健を教育カリキュラムに取り入れる

課題番号 : 24 指 2
研究課題名 : アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・
災害等に対応した新規戦略策定の研究
主任研究者名 : 溝上哲也
分担研究者名 : 門司和彦 (開発途上国における保健医療サービス強化のための学校保健普及についての県レベル研究)
キーワード : 国際学校保健、エコヘルス教育、肝吸虫
研究成果 :

1. 研究目的

これまで、ラオスで開発してきたモデルカリキュラムと教材を活用し、県の教員養成校での実証研究を行い、その導入の可能性と課題を検討することを目的とした。また、学童を含む住民に対して寄生学検査を行い、得られた結果を健康、環境教育の教材作成に活用することを目的とした。

2. 研究方法

ラオス国立大学教育学部と協力し、サワンナケート県の教員養成校において、1) 評価法の開発、2)研修、3)事前調査、4)実践、5)事後調査を行い、6)エコヘルス教育カリキュラムの導入の可能性と課題を検討した。また、ラオスの県レベルの行政、研究機関と連携して、学童を含む住民に対して寄生虫学検査(採血と検便)を実施し、遺伝子解析を行った。

3. 研究の成果

1) 評価法の開発については、①エコヘルス KAP 調査(Knowledge, Attitude, Practice) と②エコヘルス教育の指導力調査のためのスケールを開発した。さらに、2)研修については、ラオス国立大学教育学部とサワンナケート地域の教員養成校および同県のソンコン郡ラハナム地区において、モデルカリキュラムと教材紹介のための研修を実施した。また、3)実践については、ラオス国立大学教育学部と、サワンナケート県の教員養成校で、(1)理論編と、(2)実践編の2つの授業を実施した。また、開発しているカリキュラムについての意見交換会を行った(各授業は、16コマで構成、1コマは100分で構成)。4)および5)事前・事後調査の実施については、開発した評価スケールを用いて、教育の実施の前後の変化を評価した。さらに、6)エコヘルス教育カリキュラムの導入の可能性と課題の検討については、実施したモデルカリキュラムの検討会と関係省庁への成果報告を行った。その結果、ラオスにおいて教員養成を行う全国16か所の学校で2014年に改訂、2017年から実施される教育カリキュラムの中に、人口学およびエコヘルス教育として正式に導入されることになった。また、2013年12月に行われたアジア学校保健研修において、次世代の国際的な開発戦略の一つとして、ラオスの研究で得られた成果を基盤として「エコヘルス教育」を提案し、承認された。一方、学校保健統計データの収集に関しては、教員養成校とその附属学校を拠点としたデータ収集システムの開発に成功し、現在、5か所から約1万人の児童生徒の身長、体重、視力、聴力、ライフスタイル、メンタルヘルス等のデータを収集し、分析を進めている。また、寄生虫学検査の結果、28.9%から47.1%がタイ肝虫症、39.6%から73.6%が鉤虫症に感染していることが明らかになった。

4. 今後の課題

今後は、エコヘルス教育のモデルカリキュラムの実践で得られた成果と課題を集約し、2017年からの正式導入に向けて、教科書の内容や指導法を修正していく必要がある。また、寄生虫学検査で明らかになったタイ肝吸虫症や鉤虫症についても、エコヘルス教育のテーマの一つとして取り上げていく必要がある。さらに、現在収集している学校保健統計データの継続的な収集と分析を進めていく必要がある。

課題番号 : 24指2

研究課題名 : 口腔保健の視点を組み入れた途上国学校保健政策戦略に関する研究
— マダガスカル青少年のタバコ習慣開始の危険要因と学校保健による防止対策に関する研究—

主任研究者名 : 溝上 哲也

分担研究者名 : 池田 憲昭

キーワード : 学校歯科保健、喫煙習慣、生活習慣病、口腔疾患

研究成果 :

- 初年度、日本、タイ、マダガスカル、マレーシア各国および世界保健機関の口腔保健分野の公衆衛生学専門家、学校保健政策担当者からの情報収集により口腔保健分野の学校保健政策のグローバルな流れを明らかにした。
- その議論の結果、生活習慣病の共通危険因子としての喫煙開始年齢が若年化しているマダガスカルの状況が注目された。
- そこでマダガスカル国の喫煙年齢低下傾向に対する学校保健を通じた有効な対策法を明らかにすることを目標として、2013年3月にマジャンガ市において、同国の児童、青少年の喫煙開始年齢の現状とその背景因子を明らかにするための予備調査を実施した（同国保健省倫理委員会による審査済み）。
- 対象は、同市の公立小学校の4年から6年生、年齢10歳から12歳の計1545名(男女)。その結果、喫煙常習者は113名(7.3%)、男子が優位だが、最低開始年齢は7歳で2007年の調査の12歳より更に低下傾向にあり、また女子の喫煙率の増加が顕著であった。この結果を受けて、喫煙率の高い学校を介入校とした介入対照研究を実施中である。
- 26年度の予定は、中間評価（4月）、同分析（5月）、最終評価（11月）、同分析（27年1月）、評価会議（班会議）（27年2月）である。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 24指2

研究課題名： アジア・アフリカにおける学校保健の政策実施評価と疾病構造変遷・災害等に対応した新規戦略策定の研究

主任研究者名： 溝上哲也

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Mental health status among Burmese adolescent students living in boarding houses in Thailand: a cross-sectional study.	Akiyama T, Win T, Maung C, Ray P, Sakisaka K, Tanabe A, Kobayashi J, Jimba M.	BMC Public Health.	Vol.13 No.April	2013
Prevalence and clinical aspects of human Trichostrongylus colubriformis infection in Lao PDR	Wathanakulpanich D, Pongvongsa T, Sanguankiat S, Nuamtanong S, Maipanich W, Yoonuan T, Phuphisut O, Boupha B, Moji K, Sato M, Waikagul J	Acta Tropica	Vol.126, No.1	2013
Self-assessed approach to improving school health in Niger	Takeuchi R, Boureima D, Mizuguchi D, Awazawa T, Kato Y, Akiyama T, Nonaka D, Kobayashi J.	Rural and Remote Health	13	2013
Factors influencing the National School Health Policy implementation in Lao PDR: a multi-level case study.	Saito J, Keosada N, Tomokawa S, Akiyama T, Kaewviset S, Nonaka D, Waikagul J, Kobayashi J, Souvanvixay M, Jimba M.	Health Promotion International	29 (1)	2014
Nematode infection among ruminants in monsoon climate (Ban-Lahanam, Lao PDR) and its role as food-borne zoonosis	Marcello Otake Sato; Megumi Sato; Kittipong Chaisiri; Wanna Maipanich; Tippayarat Yoonuan; Surapol Sanguankiat; Tiengkham Pongvongsa; Bounngong Boupha; Kazuhiko Moji; Jitra Waikagu l	Braz. J. Vet. Parasitol., Jaboticabal	Vol.23, No.1	2014
Patterns of trematode infections of Opisthorchis viverrini (Opisthorchiidae) and Haplorchis taichui (Heterophyidae) in human populations from two villages in Savannakhet Province, Lao PDR	Megumi Sato, Tiengkham Pongvongsa, Surapol Sanguankiat, Tipparayat Yoonuan, Jun Kobayashi, Bounngong Boupha, Futoshi Nishimoto, Kazuhiko Moji, Marcello Otake Sato, Jitra Waikagul	Journal of Helminthology	on line article	2014
エコヘルスという視点--寄生虫学からみたエコヘルス--タイ肝吸虫を例に	サトウ恵, Marcello Otake Sato	医学のあゆみ	Vol.249	2014
ラオスの首都部および中部の小中学生の身体的健康状態とそれに影響を及ぼす要因の解明--不定愁訴の多寡および食習慣に着目して--	友川幸、朝倉隆司、國土将平、小磯透、渡辺隆一、川合裕也、Ngouay Keosada、Uttha Khamheang、Veota Phommakham、Bounseng Kanhavong、Phounmy Duangchanh、門司和彦	アサヒビール学術振興財団研究紀要	27巻	2014

研究発表及び特許取得報告について

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
国際学校保健の今、そして未来～国際学校保健分野の人材育成を中心に～	友川幸, 朝倉隆司, 秋山剛, 小林潤	第22回日本健康教育学会	千葉	2013年6月
開発途上国における包括的学校保健の国際的普及とヘルスプロモーションスクール	小林潤	第22回健康教育学会	千葉	2013年6月
Preliminary research on relationship among absenteeism, general malaise and life style of adolescent in LAO PDR	友川幸, 朝倉隆司, Ngouay Keosada, Bounseng Kanhavong, Uttha Khamheang, Bouaphanh Ludetmounson, Shohei Kokudo, Phoumy Douangchanh, 門司和彦	21th The International Union for Health Promotion and Education	Pattaya, Thailand	2013年8月
Investment of reliability and validity of center for epidemiologic studies depression (CES-D) scale for adolescent in Lao PDR	朝倉隆司, 友川幸, Ngouay Keosada, Bounseng Kanhavong, Bouaphanh Ludetmounson, Uttha Khamheang, Khammanh Maikhamphang, Phoumy Douangchanh, 門司和彦	21th The International Union for Health Promotion and Education	Pattaya, Thailand,	2013年8月
Strengthening of the school health promotion in Mekong region by Japan consortium of global school health research (JC-GSHR) and global partners. Symposium: The characteristics of health promoting schools from an Asian perspective	Kobayashi J	21st IUHPE World Conference on Health Promotion	Pattaya Thailand	2013年8月
Regional situation of school health Workshop: School Health, Education & Development in Lao Income Countries	Kobayashi J	ASCD-ISHN School Health Symposium	Pattaya Thailand	2013年8月
Standardization of Growth Curve of Southeast Asian Countries and Comparison with WHO Standard.	國土将平, 友川幸, 大澤清二, 朝倉隆司, 佐川哲也, 中野貴博, 島田敦子	7th National Health Research Forum	Vientiane, Lao PDR,	2013年10月
Reliability and validity of Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale for adolescent in Lao PDR.	友川幸, Ngouay KEOSADA, Bounseng KANHAVONG, Bouaphanh LUDETMOUNESONE, Uttha KHAMHEANG, Khammanh MAIKHAMPHANG, Phoumy DOUANGCHANH, 門司和彦	7th National Health Research Forum	Vientiane, Lao PDR,	2013年10月
Preliminary research on relationship among absenteeism, general malaise and life style of adolescent in Lao PDR.	友川幸, 朝倉隆司, Ngouay KEOSADA, Bounseng KANHAVONG, Bouaphanh LUDETMOUNESONE, Uttha KHAMHEANG, Phoumy DOUANGCHANH, 門司和彦	7th National Health Research Forum	Vientiane, Lao PDR,	2013年10月
Development and dissemination of children's health check up system by using School Health in Lao PDR.	Uttha KHAMHEANG, 友川幸, 朝倉隆司, 國土将平, Ngouay KEOSADA, Bounseng KANHAVONG, Veota PHOMMAKHAM, Bouaphanh LUDETMOUNESONE, Phoumy DOUANGCHANH, 小磯透, 門司和彦	7th National Health Research Forum	Vientiane, Lao PDR,	2013年10月

研究発表及び特許取得報告について

Effectiveness of teacher's training package for providing teacher's training for school based children's health check up in Lao PDR.	Bounseng KANHAVONG, 友川幸, 朝倉隆司, 國土将平, Ngouay KEOSADA, Uttha KHAMHEANG, Bounseng KANHAVONG, Bouaphanh LUDETMOUNESONE, Veota PHOMMAKHAM, Phoumy DOUANGCHANH, 小磯透, 門司和彦	7th National Health Research Forum	Vientiane, Lao PDR,	2013年10月
Making schools healthy among Burmese migrants in Thailand	秋山剛, ターウィン, マウンシンシア, ポーレイ, 梶藍子, 田辺文, 神馬征峰, 小林潤	第28回日本国際保健医療学会	沖縄	2013年11月
ラオスにおける学校保健を活用した健康診断システムの開発とその普及ー健康診断の意義の理解とそのデータの健康教育への活用ー	友川幸, 朝倉隆司, 國土将平, Ngouay Keosada, Uttha KHAMHEANG, Bouaphanh LUDETMOUNESONE, Bounseng KANHAVONG, Phoumy DOUANGCHANH, 門司和彦	第28回国際保健医療学会	名護	2013年11月
ラオスの教員養成校の学生の欠席に影響を及ぼす要因の検討ー生活習慣の乱れと不定愁訴に着目してー	友川幸, 朝倉隆司, 國土将平, 小磯透	第60回日本学校保健学会	東京	2013年11月
教員養成系大学における喫煙防止教育の開発のための予備的研究ー喫煙防止教育に関する知識と意識の実態に着目してー	友川幸	第60回日本学校保健学会	東京	2013年11月
教員養成系大学における喫煙防止教育の開発のための予備的研究	友川幸, 小林昇平, 齋藤順子	日本体育学会甲信支部 長野体育学会第49回大会	長野	2014年1月
ラオスにおける学校を基盤とした子どもの健康診断の実施のための教員研修プログラムの開発とその効果	鳥澤一馬, 友川幸, 朝倉隆司, 國土将平, 小磯透, Ngouay Keosada, Uttha Khamheang, Veota Phommakham, Bounseng Kanhavong, Phounmy Duangchanh, 門司和彦	日本体育学会甲信支部 長野体育学会第49回大会	長野	2014年1月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
学校保健	友川幸, 小林潤	国際保健医療学 第3版	東京	2013年11月
教師が行う学校での健康診断は、ラオスの子どもたちの健康を守る第一歩ー教員養成校を拠点とした学校での健康診断システムの開発	友川幸	月刊新医療	東京	2014年1月

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				